

II 各教科の分析結果

1 小学校第5学年

(1) 国語

① 概要

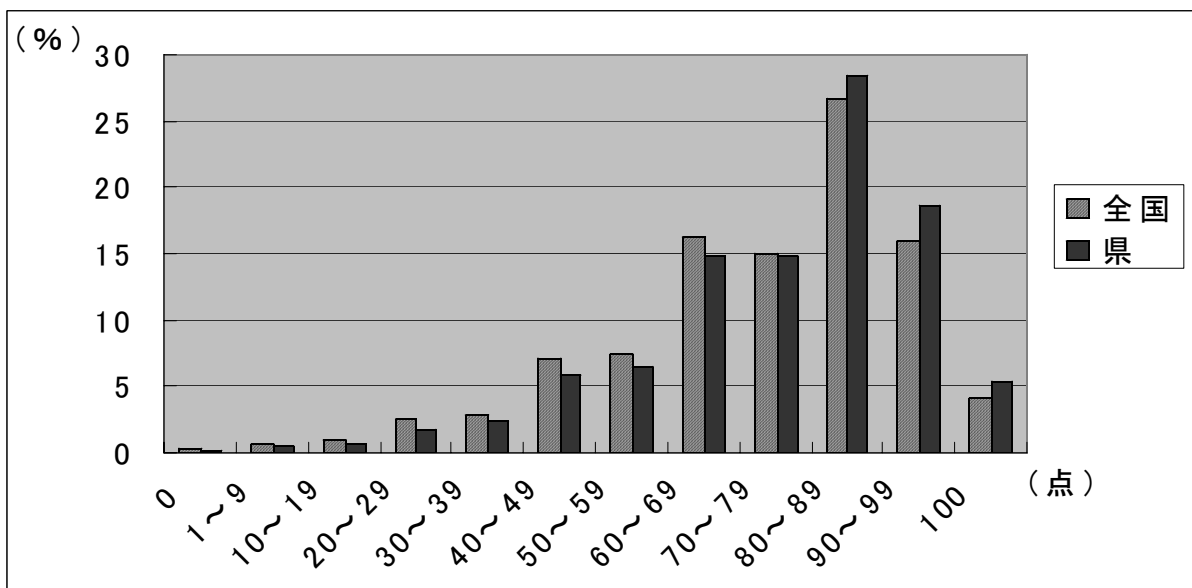
「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の領域は全国平均よりやや高く、「読むこと」の領域は全国平均とほぼ同じである。漢字や文法などの「言語事項」は全国平均より高い。「書くこと」と「言語事項」は基礎・基本が確実に定着してきている。また、教科に関する関心・意欲・態度も全国平均よりやや高い。

小問別にみると、「読むこと」に関して、説明的文章と文学的文章のいずれにおいても、要旨や主題の把握が課題である。今後は、文章全体を見通して要旨や主題を的確に把握し、簡潔にまとめていく力を育てる授業の展開が必要である。

② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	72.1	75.0	2.9
	基礎	74.0	76.7	2.7
	応用	66.1	69.7	3.6
観 点 別	話す力・聞く力	79.7	82.4	2.7
	書く力	67.8	71.2	3.4
	読む力	69.5	70.8	1.3
	言語についての知識・理解・技能	72.4	76.7	4.3
領 域 別	音声言語	79.7	82.4	2.7
	説明的文章	76.4	77.7	1.3
	文学的文章	62.6	63.8	1.2
	言語事項	72.4	76.7	4.3

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差
1	1	話の内容の聞き取り	話す・聞く	音声言語	85.5	87.1	1.6
	2	話の内容の聞き取り	話す・聞く	音声言語	82.2	82.8	0.6
	3	質問の仕方の理解	話す・聞く	音声言語	71.6	77.4	5.8
2	1	文脈に即した内容の理解①②	読む	説明的文章	76.5	76.7	0.2
	2	文脈に即した内容の理解	読む	説明的文章	84.5	84.9	0.4
	3	理由の記述	書く, 読む	説明的文章	79.5	80.3	0.8
	4	文脈に即した内容の理解	読む	説明的文章	65.1	65.1	0.0
	5	文章を踏まえた意見の記述	書く, 読む	説明的文章	76.4	81.7	5.3
3	1	比喻表現の理解	読む	文学的文章	55.0	55.3	0.3
	2	人物の心情の理解	読む	文学的文章	74.2	74.2	0.0
	3	文脈に即した内容の理解	読む	文学的文章	70.6	71.4	0.8
	4	文脈に即した内容の理解と記述	書く, 読む	文学的文章	60.8	62.1	1.3
	5	文章を踏まえた短作文	書く, 読む	文学的文章	52.7	56.3	3.6
4	1	漢字の読み	言語	言語事項	94.8	96.2	1.4
	2	漢字の読み	言語	言語事項	95.5	97.1	1.6
	3	漢字の読み	言語	言語事項	93.8	95.7	1.9
5	1	漢字の書き	言語	言語事項	72.5	85.3	12.8
	2	漢字の書き	言語	言語事項	80.6	82.7	2.1
	3	漢字の書き	言語	言語事項	69.2	68.4	-0.8
6	1	1 主語述語 (主語)	言語	言語事項	58.8	65.8	7.0
		2 主語述語 (述語)	言語	言語事項	45.7	56.7	11.0
	2	文の形	言語	言語事項	54.9	54.8	-0.1
7		丁寧語	言語	言語事項	78.8	82.3	3.5
8		ローマ字	言語	言語事項	54.4	59.5	5.1
9		指示された言葉を用いた短文記述	書く, 言語	言語事項	69.7	75.7	6.0

※「観点別」の「言語」……「言語についての知識・理解・技能」

⑤ 領域ごとの考察

ア 音声言語

すべての小問で全国平均を上回っており、領域全体では2.7ポイント上回っている。特に、聞き取った内容をさらに深めて質問した内容を記述する小問3は、全国平均よりも5.8ポイント高かった。しかし、話の内容を把握する小問1及び2はほぼ全国平均にとどまっている。

そこで、指導に当たっては、聞くこと的能力を平常の授業においてさらに育てていくために、主語・述語を意識して内容を的確に把握したり、話の要点を簡潔にまとめたりするような活動を取り入れることが大切である。

イ 説明的文章

ほとんどの小問で全国平均を上回っており、領域全体では1.3ポイント上回っている。特に、文章の内容を踏まえて自分の考えを記述する問題では全国平均を5.3ポイント上回っている。しかし、文章の内容を正確に把握して答える問題の通過率は65.1ポイントにとどまっている。

そこで、指導に当たっては、文章の内容を展開に即して的確に把握する力を育成するために、主語・述語の関係に気を付けて内容を読み取ったり、文章の要点を的確にとらえて簡潔にまとめたりするような授業を継続していくことが必要である。また、自分の考えを記述する場合、書くべき内容を精選し、一文をできるだけ短く書いていく力を育てるような活動の展開が大切である。

ウ 文学的文章

ほとんどの小問で全国平均を上回っており、領域全体では1.2ポイント上回っている。特に、文章の内容を踏まえて自分の考えを記述する問題では全国平均を3.6ポイント上回っている。しかし、無解答率が10.2%であり、比喩表現や文章の内容を踏まえた短文作成の問題の通過率は55.3～56.3ポイントにとどまっている。

そこで、指導に当たっては、文章の内容を把握し自分の考えをもつ力を育成するために、比喩などの表現技法に注目したり、登場人物の言動から心情を読み取ったりする力を高めるような授業を展開していく必要がある。

エ 言語事項

ほとんどの小問で全国平均を上回っており、領域全体では4.3ポイント上回っている。しかし、主語・述語を答える問題では、2問の平均通過率が全国平均を9.0ポイント上回っているものの、その平均通過率は61.3ポイントにとどまっている。また、ローマ字の問題は無解答率が22.3%、短文作成の問題は無解答率が13.2%である。

そこで、指導に当たっては、文章の読解においては主語と述語を意識した読み取りを行ったり、書く活動においては主語・述語の関係に注意して的確に書くような活動を行ったりするなど、領域を関連付けた活動を計画的に位置付けていくことが重要である。

(2) 社会

① 概要

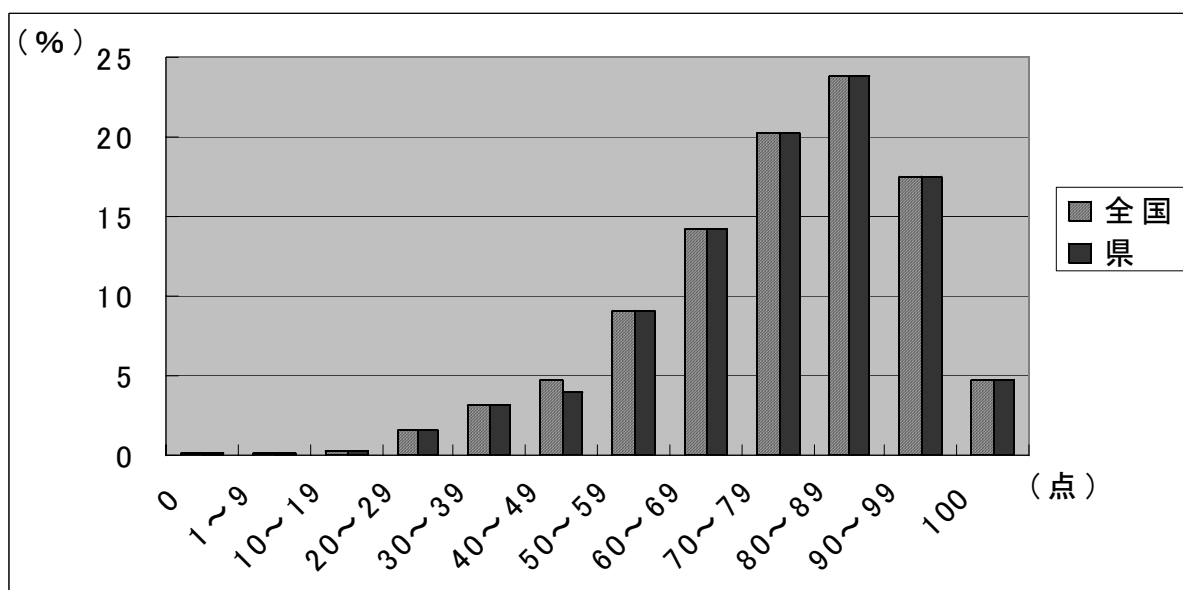
一部の内容については全国平均より低いところもみられるが、教科全体としては全国平均よりも高い。特に、社会的な思考・判断は高い結果が出ており、関心・意欲・態度も全国平均より高く、概ね満足できる結果である。しかし、棒グラフの読み取りなど資料活用の技能・表現は全国平均よりも低い。

「都道府県の様子」が全国平均よりも低いことから、今後は、自分の住んでいる市町村や本県の特色について、学習の中で地図帳を積極的に活用したり、グラフや図から読み取らせる機会を多く設けたりすることによって、理解力、表現力を育てる指導が必要である。

② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	70.4	72.6	2.2
	基礎	70.8	71.4	0.6
	応用	68.0	77.5	9.5
観 点 別	社会的な思考・判断	63.5	76.8	13.3
	観察・資料活用の技能・表現	71.9	71.0	-0.9
	社会的事象についての知識・理解	72.4	73.7	1.3
領 域 別	地域の人々の生活を支えるもの	69.6	73.5	3.9
	地域の人々の生活の移り変わり	85.1	84.1	-1.0
	都道府県の様子	65.0	60.9	-4.1

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差	
1	1	調査方法の判断	思考・判断 知識・理解	生活を支えるもの	64.5	75.3	10.8	
	2	浄水場の仕組み	技能・表現	生活を支えるもの	82.7	77.6	-5.1	
	3	下水処理の仕組み	知識・理解	生活を支えるもの	55.7	45.7	-10.0	
2	1	棒グラフの読み取り	技能・表現	生活を支えるもの	60.0	48.5	-11.5	
	2	水を守る工夫	思考・判断	生活を支えるもの	55.4	67.1	11.7	
	3	水の確保	知識・理解	生活を支えるもの	96.2	93.0	-3.2	
	4	節水の工夫	思考・判断	生活を支えるもの	80.0	76.0	-4.0	
3	1	ごみ処理の方法	思考・判断 技能・表現	生活を支えるもの	91.3	91.1	-0.2	
	2	ごみ処理の作業内容の流れ	知識・理解	生活を支えるもの	74.3	74.6	0.3	
	3	①	資源ごみの処理方法	技能・表現 知識・理解	生活を支えるもの	73.8	75.5	1.7
		②	リサイクルセンターの仕事	知識・理解	生活を支えるもの	79.6	86.0	6.4
4	1	ごみの始末の移り変わりとその背景	思考・判断 技能・表現	生活を支えるもの	58.8	61.0	2.2	
	2	ごみを減らす工夫	思考・判断	生活の移り変わり	82.1	84.2	2.1	
5	1	博物館の利用方法	知識・理解	生活の移り変わり	88.9	82.9	-6.0	
	2	昔の道具と今の道具の特徴	技能・表現	生活の移り変わり	83.8	86.9	3.1	
	3	道具の年表の読み取り	思考・判断 技能・表現	生活の移り変わり	82.5	82.6	0.1	
6	1	宮崎県の土地の様子	技能・表現	県の様子	独自問題	69.6		
	2	宮崎県の土地の様子	知識・理解	県の様子	独自問題	44.0		
	3	宮崎県の人々の暮らし	知識・理解	県の様子	独自問題	57.0		
	4	宮崎県と関係の深い国	技能・表現 知識・理解	県の様子	独自問題	72.8		

⑤ 領域ごとの考察

ア 地域の人々の生活を支えるもの

「調査方法の判断」，「水を守る工夫」，「リサイクルセンターの仕事」についての小問は，全国平均より高かった。一方，大問1～3においては，11問中6問が全国平均より低く，特に「下水処理の仕組み」，「棒グラフの読み取り」は全国平均より10ポイント低かった。

そこで，指導に当たっては，飲料水や下水について扱う際には，水道工事に携わる人々などから話を聞いたり，浄水場の施設を見学したりするなど，水が作られ，消費地に供給されるまでを具体的に調べる活動を展開する必要がある。このような活動を通して，水がいろいろな施設や人々の働きに支えられて確保されていることや，節水が資源の節約になることについて考えるようにすることが大切である。また，日常の指導の場面において，資料の読み取りをさせる機会をできるだけ多くつくるのが大切である。その際，資料から何が分かるかということについて，自分のことばで説明させるなどして，資料の読み取りに慣れさせるように指導する必要がある。

イ 地域の人々の生活の移り変わり

この領域では「博物館の利用方法」についての小問の通過率が低く，他はほぼ全国平均と同じであった。

そこで，指導に当たっては，地域の博物館や郷土資料館などにある昔の道具を見学したり，高齢者から話を聞いたりして，人々の生活の変化を考える手掛かりとなる見学や調べる活動などを積極的に取り入れる必要がある。その際，博物館などの施設の利用方法についても指導する必要がある。

ウ 都道府県の様子

宮崎県の地形，暮らし，外国との関係についての出題であった。地図から宮崎県の地形の特色を読み取る力や，外国との関わりについての知識は概ね身に付いているが，地図中に示された縮尺を基に実際の距離を求める問題は通過率が低かった。

そこで，指導に当たっては，県内の特色ある地域に関する資料を収集し，有効に活用したり，白地図にまとめたりして，県の特色を考えさせることが大切である。その際，地図を繰り返し活用し，縮尺，地図記号，方位の見方など基礎的・基本的な事項の定着を図る必要がある。

(3) 算数

① 概要

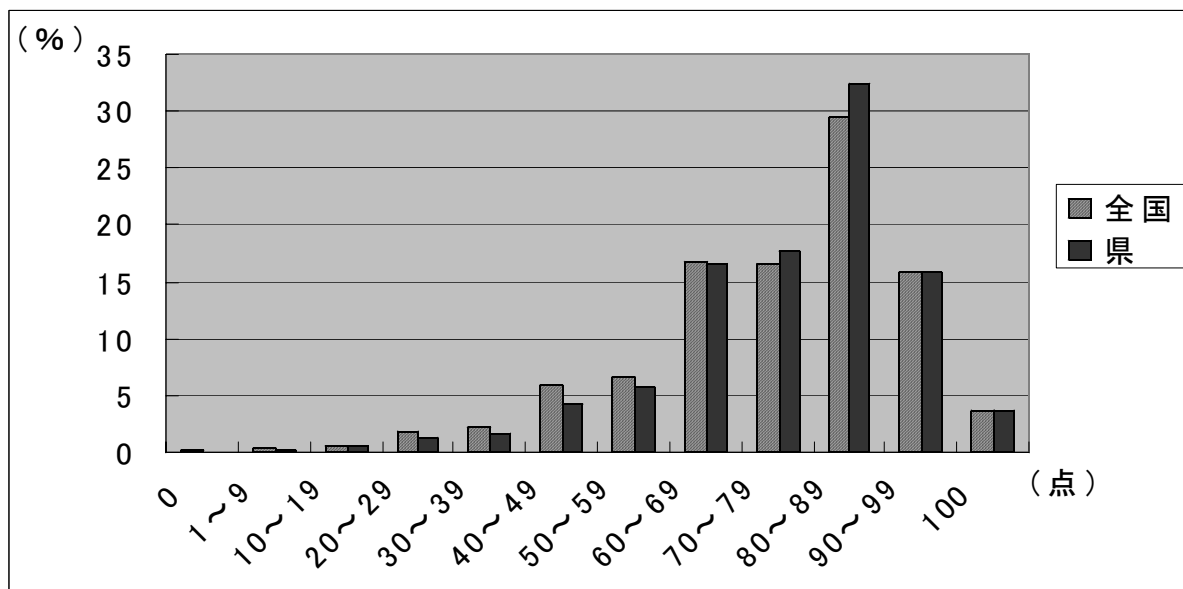
教科全体、各領域ともに全国平均とほぼ同じである。また、関心・意欲・態度については全国平均より高く、特に、計算の練習を繰り返し行っていく姿勢が身に付いている。その結果、「数と計算」領域では、基礎・基本の定着が図られている。小問別では、「伴って変わる数量の関係を式で表す」が特に低い結果であった。

今後は、実際に作業や体験する活動を通して、多面的なものの見方や考える力を伸ばし、児童自らが数量や図形についての関係やきまりを発見したり理解したりして、その意味を実感できるように指導していく必要がある。

② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	74.0	75.7	1.7
	基礎	77.7	79.4	1.7
	応用	59.1	60.7	1.6
観 点 別	数学的な考え方	59.1	60.7	1.6
	数量や図形についての表現・処理	73.9	75.8	1.9
	数量や図形についての知識・理解	74.2	75.5	1.3
領 域 別	数と計算	81.2	82.9	1.7
	量と測定	80.2	81.7	1.5
	図形	59.1	60.5	1.4
	数量関係	66.7	68.4	1.7

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差
1	1	小数の加法	表現処理	数と計算	95.3	95.5	0.2
	2	小数の減法	表現処理	数と計算	60.9	58.4	-2.5
	3	3位数÷1位数の計算	表現処理	数と計算	86.7	88.2	1.5
	4	3位数÷2位数の計算	表現処理	数と計算	79.6	80.2	0.6
	5	四則の混合した計算	表現処理	数量関係	56.8	67.1	10.3
2	1	四捨五入	表現処理	数と計算	78.0	84.9	6.9
	2	十進位取り記数法と数直線	知識理解	数と計算	85.4	82.6	-2.8
	3	小数を相対的にとらえる	知識理解	数と計算	94.5	96.2	1.7
	4	小数の大小	知識理解	数と計算	97.5	97.9	0.4
	5	分数の大小	知識理解	数と計算	64.7	68.8	4.1
3	1	1回転の角度	知識理解	量と測定	86.4	87.9	1.5
	2	分度器の目盛りの読み取り	知識理解	量と測定	84.2	88.9	4.7
	3	長方形の面積	表現処理	量と測定	94.7	96.1	1.4
4	1	円の構成要素	知識理解	図形	78.2	86.2	8.0
	2	二等辺三角形の性質	知識理解	図形	55.4	53.1	-2.3
	3	正三角形の作図	表現処理	図形	81.8	85.3	3.5
5	1	折れ線グラフの目盛りの読み取り	表現処理	数量関係	63.0	62.8	-0.2
	2	折れ線グラフの変化の様子	表現処理	数量関係	80.3	82.2	1.9
	3	伴って変わる数量の関係を式で表す	表現処理	数量関係	71.5	62.5	-9.0
	4	数量の関係を式で表す	表現処理	数量関係	59.7	63.2	3.5
6	1	文章題：小数＋小数の計算	考え方 表現処理	数と計算	91.8	93.5	1.7
	2	文章題：2位数÷1位数の計算	考え方 表現処理	数と計算	58.5	65.8	7.3
	3	複雑な図形の面積	考え方 表現処理	量と測定	55.4	53.8	-1.6
	4	文章題：四則の混合した計算	考え方 表現処理	数量関係	68.7	72.6	3.9
	5	円・長方形の性質と図形の周の長さ	考え方 知識理解	図形	21.1	17.6	-3.5

⑤ 領域ごとの考察

ア 数と計算

ほとんどの小問で全国平均を上回っている。また、昨年度の類似問題との比較において、通過率が上回っており、「数と計算」領域における基礎・基本の定着が図られている。しかし、十進位取り記数法と数直線、繰り下がりのある小数の減法が全国平均より低くなっている。

そこで、指導に当たっては、億や兆の単位の導入については、新聞や資料集等から具体的な場面を取り上げ、生活との関連を図りながら数の大きさのイメージをつかませていくことが大切である。小数の加法・減法については、整数の計算と対比させながら理解させるとともに、小数点を必ずそろえ、位を意識しながら計算できるように丁寧に指導する必要がある。また、概数によって答えの見通しをもたせることも大切である。計算については、小テストによる実態把握と個別指導の時間を充実させるとともに、継続した指導が重要である。

イ 量と測定

ほとんどの小問がほぼ全国平均と同じであるが、昨年度の類似問題との比較において、通過率が上回ってきており、定着が図られてきている。しかし、複雑な図形の面積については、昨年度の類似問題と同様、通過率が低く、無解答率は5%である。

そこで、指導に当たっては、補助線で分割し、見慣れた図形にどのように帰着させていくかがポイントである。そのためには、実際に図形を作ったり、切ったり、コンピュータでシミュレーションしたりするなどの算数的活動を通して、図形についての豊かな感覚を養っていくことが大切である。また、このような活動を通して、多面的なものの見方や考え方を養うとともに、興味・関心を高め、児童が主体的に問題解決していく姿勢を育成することも重要である。

ウ 図形

領域全体で見るとほぼ全国平均と同じであるが、二等辺三角形の性質や円・長方形の性質についての小問の通過率が低い結果である。

そこで、指導に当たっては、「量と測定」と同様、実際に図形を作って、違う角度から調べたり、具体物を観察したり、比べたりする活動を通して、児童自らが図形の性質を発見したり、活用したりできるようにしていくことが大切である。また、このような算数的活動から、図形についての見方や感覚を豊かにしていくことも重要である。

エ 数量関係

領域全体で見るとほぼ全国平均と同じであるが、伴って変わる数量の関係を式で表す小問が、昨年度の類似問題と同様、通過率が低く、無解答率は5%である。また、四則の混合した計算が昨年度の類似問題の通過率より低くなっている。

そこで、指導に当たっては、四則の混合した計算については、どの段階でつまづいているのかを把握し、計算順序の約束事を再度確認していくことが大切である。グラフや数量の関係を式で表すことについては、具体的な場面に対応させながら、図、表、グラフ及び式の関連をとらえさせていくことが重要である。そして、そのような活動を通して、言葉の式で表すことのよさに気付かせていくことが大切である。また、数量の関係を式で表したり、その式をよんだり用いたりすることが十分に理解できていない児童がいることから、個に応じた指導の充実を図っていく必要もある。

(4) 理科

① 概要

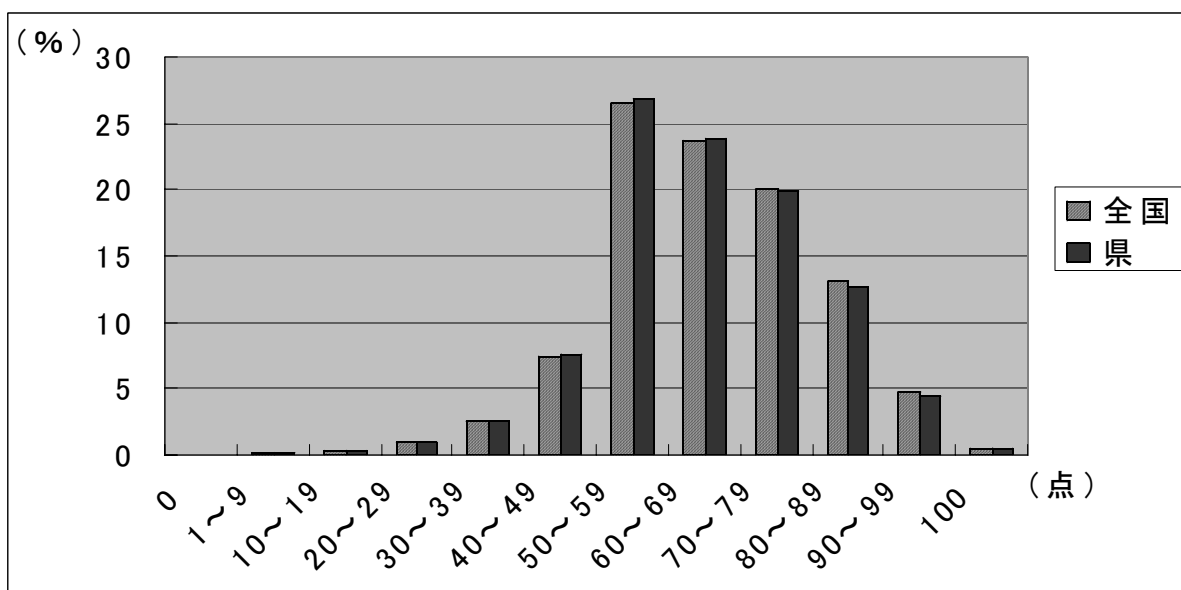
全国平均より若干低い領域がみられるものの、教科全体、各領域ともに全国平均とほぼ同じ状況である。小問別にみると「乾電池のつなぎ方」、「空気と水の性質の違い」、「水の状態と体積の変化」、「水の対流」の内容では、全国平均より低い状況がみられた。また、理科に関する関心・意欲・態度については、全国平均とほぼ同じ状況である。

今後は、目的意識をもった観察・実験を一層重視し、自然事象についての知識・理解を深めるとともに、科学的な思考を深める指導の充実が求められる。

② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	65.5	65.3	-0.2
	基礎	69.7	69.5	-0.2
	応用	54.5	54.0	-0.5
観 点 別	科学的な思考	48.6	48.2	-0.4
	観察・実験の技能・表現	59.5	59.1	-0.4
	自然事象についての知識・理解	75.1	75.0	-0.1
領 域 別	生物とその環境	78.4	78.4	0.0
	物質とエネルギー	64.8	64.3	-0.5
	地球と宇宙	56.1	56.0	-0.1

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差
1	1	温度計の使い方	技能・表現	生物と環境	46.9	46.9	0.0
	2	ヘチマの種のまき方	知識・理解	生物と環境	78.2	78.3	0.1
	3	春の生き物	知識・理解	生物と環境	89.4	89.3	-0.1
2	1	電池の極	知識・理解	物質とエネルギー	96.2	96.1	-0.1
	2	乾電池のつなぎ方	科学的な思考	物質とエネルギー	44.7	43.9	-0.8
	3	乾電池のつなぎ方	技能・表現	物質とエネルギー	45.5	44.8	-0.7
3	1	星座早見の使い方	技能・表現	地球と宇宙	58.5	58.4	-0.1
	2	星座のなまえ	知識・理解	地球と宇宙	83.3	83.3	0.0
	3	星座の動き	知識・理解	地球と宇宙	41.7	42.2	0.5
4	1	昆虫の卵	知識・理解	生物と環境	97.8	97.8	0.0
	2	冬の生き物	科学的な思考	生物と環境	79.8	79.7	-0.1
5	1	空気てっぽう	技能・表現	物質とエネルギー	78.1	77.7	-0.4
	2	空気てっぽう	知識・理解	物質とエネルギー	83.7	83.2	-0.5
	3	空気と水の性質の違い	知識・理解	物質とエネルギー	87.1	87.0	-0.1
	4	空気と水の性質の違い	科学的な思考	物質とエネルギー	45.6	44.8	-0.8
6	1	水の対流	知識・理解	物質とエネルギー	18.7	18.1	-0.6
	2	金属の棒のあたたまり方	知識・理解	物質とエネルギー	90.6	90.3	-0.3
	3	ものの温度とかさ	知識・理解	物質とエネルギー	78.3	78.2	-0.1
	4	あたためられた空気	科学的な思考	物質とエネルギー	44.1	43.6	-0.5
7	1	水の沸騰	知識・理解	地球と宇宙	56.2	55.9	-0.3
	2	水の状態と体積の変化	技能・表現	地球と宇宙	68.4	67.7	-0.7
	3	水の変化	科学的な思考	地球と宇宙	28.9	28.7	-0.2

⑤ 領域ごとの考察

ア 生物とその環境

3領域の中で比較すると定着が図られていた領域であるが、「春の生き物」、「冬の生き物」などすべての小問で全国平均と同程度である。「温度計の使い方」に関する小問では、通過率は全国平均と同じではあるが、50%以下であり理解が十分な状況であるとは言えない。

そこで、指導に当たっては、身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と季節とのかかわりについて考えさせる必要がある。また、温度計の使い方については、目盛りのよみ方や測定場所の選び方について、様々な場や機会に繰り返し指導を行い、定着を図ることが必要である。

イ 物質とエネルギー

ほとんどの小問で、全国平均よりわずかに低い結果である。「水の対流」では通過率20%程度、「乾電池のつなぎ方」の作図の小問については、40%程度で低い結果である。全国平均との比較では、「空気と水の性質の違い」及び「あたためられた空気」の科学的な思考を問う記述式の小問で、通過率が低かった。

そこで、指導に当たっては、「水の対流」の理解を深めるために、実験による視覚的な理解を大切にしながら、実験後に水の対流の様子を図や絵で描かせ、定着を図るなどの指導を行うことが必要である。また、「乾電池のつなぎ方」に関しては、実際に回路を作らせてみて正しく作動したか、電池のつなぎ方の違いによってどのような違いがあるのか等の実験を通して、その結果を図に描かせながら理解させるとともに、日常生活体験と関連付けて捉えさせる指導が望まれる。

また、「空気と水の性質の違い」や「あたためられた空気」に関しては、空気と水の性質の違いや空気の熱に対する性質を利用した活動やものづくりを通して、それらの性質に興味・関心をもって追求する態度を育てるために、目的意識をもたせて観察・実験を行うことが大切である。さらに、その結果を児童に発表させたりまとめさせたりする活動の場を設定するなどして、科学的に思考する力や表現する力を高める指導を充実させる必要がある。

ウ 地球と宇宙

領域全体で見るとほぼ全国平均と同じである。「水の変化」の科学的な思考を問う小問では無解答率が11.9%と高く、通過率が30%程度と低い。また、「星座の動き」についても、通過率40%程度で低い結果である。全国平均との比較では、「水の状態と体積の変化」の小問の通過率が低かった。

そこで、指導に当たっては、身の回りで、水たまりの水がなくなったり、洗濯物が乾いたりして、水の自然蒸発などが起こることや、沸騰した水の中から出る泡を集めて冷やすと水になる観察・実験などを通して、見えない水蒸気の存在を推論することができるように指導する必要がある。その際、必要に応じて教育用コンテンツなどのモデルを使って、児童が理解しやすいような指導の工夫も望まれる。また、「星座の動き」については、観察の機会をもったり、授業の中で図やモデルを積極的に活用したりするとともに、プラネタリウムなどの社会教育施設を積極的に活用し、天体に対する興味・関心をもつような指導も考えられる。